

学校現場におけるダッシュボード機能に係るアンケート結果

- ・「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」及び「教育データの利活用に関する有識者会議」の委員に対し、教育委員会による学校経営指導や人的資源の投入、学校長による学校経営判断の迅速化、児童生徒への早期支援を可能とするために、どのようなデータが可視化され、どのようなデータの組み合わせが有効と考えられるか、教育委員会/学校長/教職員というそれぞれの立場における活用方策について、御意見をお伺いするアンケートを実施（その際、データの取得方法等については考慮せず、アイディアベースでの御回答をお願いしたところ。）。
- ・アンケートに御協力いただいた委員各位の御回答は以下のとおり。

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
1	石井 一二三	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果、学校評価アンケート（児童生徒・教職員・保護者・学校評議員）、学校目標等の到達度アンケート、家庭環境調査（要保護世帯・ひとり親家庭）等の相関調査関係を把握することで、学校全体の現状課題が把握でき、学校経営上の課題を早期に発見し、事前予防的な対策を講じることとして、学校との相談のための共通の資料としての活用が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で定期的実施しているアンケート、全国学力・学習状況調査の結果、学校評価アンケート（児童生徒・教職員・保護者・学校評議員）、学校目標到達度アンケート、家庭環境調査（要保護世帯・ひとり親家庭）等の相関調査関係を把握することで、詳細な現状把握をもとにした学校経営上の成果と課題の明確化と解決、来年度の目標設定に生かすことが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級で定期的実施しているアンケート、各学校で定期的実施しているアンケート、全国学力・学習状況調査の結果、学校評価アンケート（児童生徒・教職員・保護者・学校評議員）、学校目標到達度アンケート、家庭環境調査（要保護世帯・ひとり親家庭）等の相関調査関係を把握することで、詳細な現状把握をもとにした学級経営案作成と定期的な評価と、日常の児童生徒への指導に生かすことが期待できる。 	
2	井上 義裕		<ul style="list-style-type: none"> ・分析機能や気付ける機能があれば有効。たとえば、欠席が20日であれば長期欠席とはならないが、月曜日にだけ休んでいる児童・生徒が存在すれば、土日の家庭に何かあるのか、月曜の教科担任との間に問題があるか等対応が可能となり、長期欠席となる前に対処できる。 ・渋谷区のように民間の調査と合わせると教員の配置や、学級編成に活かせる。 	※左記②の内容と同じ。	
3	今井 亜湖			<ul style="list-style-type: none"> ・作業ごとにダッシュボードが用意されているとよいのではないかと思います。 ・大学ですと、各科目のダッシュボード、校務ごとのダッシュボード（所属している委員会の情報が一元されている）を用意しております。これに事務手続き（教員が対象：例えば出張申請、欠勤申請等）が独自システムでの入力になっているため、ダッシュボード一覧に含まれていると便利かと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、学校長、教育委員会それぞれが扱うデータについて、多くの学校でそのデータをどのように用いているかを確認し、「用途＝ダッシュボードの項目」として設定できると、ユーザが校務システムを使う意味を理解できるとともに、データを探す手間がなくなり、校務システムの利点を享受できるのではないかと思います。 ・私の場合には、そのデータを用いる場面（＝科目や委員会）でダッシュボードを用意するようにこの数年で切り替えたため、どのシステムにどのデータがあるかを探す手間がなくなり、いつも同じシステムにアクセスすればよいので、ストレス軽減・作業時間の短縮につながっています。

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
4	清野 正	<ul style="list-style-type: none"> 校長の学校経営改善に資するデータを取得できれば、指導主事等による学校経営への指導助言にも、より説得力が増すと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会主導で実施した学力調査や生徒意識調査等と、学校が独自に実施した各種調査を組み合わせ、生徒の実態把握や指導方針の検討に資する総合的なデータがほしい。 生徒指導等に関する対応方針について、調査結果を基に学校がすべて方向性を考えるだけではなく、AI等の活用により、一般的・抽象的な文言でもいいので、参考となる対応指針が示されると有難い。 基本的に住民基本台帳で確認できる個人情報については、管理職のみの閲覧など一定の制限をかけた上で、学校でも情報取得できると有難い。特に、学校事務の効率化に資するデータが取得できると有難い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒虐待の疑いなどに対応するケースが増えている。生徒の家庭環境について知りたい情報が多々あるので、校長による確認を必須とするなど、一定の制限の下、情報取得できるとありがたい。 学力調査や意識調査などの素データは多々あるが、これを分析することに時間がかかる。AI等で分析の知見を蓄積し、参考となる指針がダッシュボードに示されると有難い。 	
5	小崎 誠二	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会→学校（管理職・教員）→教員（先生・子ども←保護者）、という流れでの関係者に対する周知と、見る・共有する・活用する合意形成の「範囲」を決めるのが大変ですが、まず今は、どのようなことが把握できるのかを知る段階であろうと思います。データ活用は現段階で「研究」としてはOKだと思いますが、実用はもう少し時間が必要ではないかと思えます。・データの活用は、教育委員会の担当者レベルでは多忙で無理がありますし、そもそもこれは、議会对応、事業者さんとの関係性も含めて、第三者との膨大なやりとりと合意形成が必要な内容になると思われますので、専門の部署・専任の担当者が必要であると感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の力量による影響が可視化されることになると思いますが、そもそも結果を現時点での教員が活用するとはとても思えないので、上からの指示がないと、これをどう活用したいのかがわからないし不安、先生たちに対する活用の手立てをしっかりとしてほしいと思う。が、研修では難しいのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの経験で知りえることと、自分が気づいていなかったことの切り分けが明確になれば、子どもたちの学力向上という以前の、自らの資質向上に生かせるなら活用したいと思う。のではないかと思います。・全体の平均や標準が知りたいことはもちろん、外れ値に位置するデータのところに多くの労力を注いでいる現実を再認識するだけでは、むしろ悪いところの可視化だけでは負担が増える一方で改善どころではないような気がします。いいところもしっかり浮き出っていてほしいと思います。・自分のそのときの立場によって、知りたいことが変わるので（担任か、主任か、支援か）、画面はそれなりにカスタマイズできるか、切り替えられるのが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今、奈良県では、ダッシュボードを見て先生たちが何をどう感じるのか調査をはじめています。産官学が連携するとどのようなことが見えてくるのかを、県域でチャレンジしていただいているので、引き続きこの件については、とても高い関心があります。ネットワークの系統わけの話なども踏まえたいといけませんし、同意、合意の課題もひとつずつクリアしながら進めていますので、国からも引き続き支援をお願いしたいと思っています。
6	執行 純子	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒のログ履歴や回答状況等からデータを可視化しつつ、学校の経営状況を客観的に把握し、学校の支援や指導・助言等に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営の方針に基づいた運営状況を児童生徒のログ、各種調査データ蓄積記録等をもとに、把握するための客観的データに活用することができる。学年や学級の経営状況（問題行動・不登校傾向、心身の健康状況等）を把握し、学校改善の資料にすることができる。また、対外的な説明、予算要望等を行政に行う際の根拠データにすることもできる（学力状況、支援を要する状況など）。 	<ul style="list-style-type: none"> 感覚的にとらえていた事実を裏付けるデータとしての活用の可能性。 	

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
7	妹尾 昌俊	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価でも児童生徒アンケートなどはとっているのに、児童生徒の負担軽減の点でも、教職員の負担軽減のためにも、統合・整理したほうがよいのではないかと。 各学校に「データを見て、しっかり分析せよ」と言っても、スキルも時間も限界がある。教育委員会も忙しいとは思いますが、各学校で注目してほしいところなどを提案できるようにしたい。限られたデータからの話なので、「指導」とは異なる。 たとえば、箕面市のように、児童生徒のケアとして学校がノーマークである（見落としている）可能性のある子たちをピックアップすることなどが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 先行例では定量的なデータが中心となっているが、担任等が記入する定性的な情報もあったほうがよいのではないかと。こういうところが気になった。こんな事件があった。生徒指導の事案があった、保護者との面談で聞いたことなど。 たとえば、病院のカルテのようなもの。健康診断などの過去のデータも参照できるが、医師の診断コメントも参照できるようにする。公立学校では異動も頻繁だし、担任は毎年代わるので、引き継ぎ資料として活用。残念ながら、現行の指導要録は、引き継ぎや小中の連携にほとんど活用されていない模様。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議中でも意見を申し上げたが、ある児童生徒に対する教員の思い込みやステレオタイプを強化してしまうリスクもある。本来子どもたちは多様で多面的なところがあるが、データを見ることで、都合よく解釈してしまうことがある。 研修でなんとかかなる話かどうかは分からないが、データの見方や扱いの仕方、限界などもしっかり伝える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 先行例では、教員に関する情報がほとんどないので、児童生徒の結果と教職員の働きかけとの関係が分析できない。戸田市などは多少データ分析をやっていたはず、聞いてみたい。たとえば、3年生までは精神的に落ち着いた子が多かったが、4年生になると悪化する例が多かった。この担任のもとでは、別の年でも似た傾向があった。となると、なにか指導方法や学級運営に問題がある可能性がある。 もちろん、教員データと児童生徒の情報を紐付けることには弊害やリスクも考えられる。教育委員会から監視されているように感じる教員も出てこよう。とはいえ、これまであまりにも学級経営等の状態がブラックボックスで、担任任せ過ぎたことによる弊害もある。
8	高橋 邦夫	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会においては、個別の児童生徒の情報を参照する必要はないと思いますし、アクセス権は最低限に留めるべきかと考えます。一方で教育委員会では学校ごとの特徴が捉えられることが重要ですので、出席状況や学習進度、生徒の理解度などが学校単位・学年単位で比較でき、学校長のサポートが出来るよう、分析が行いやすい仕組みとすることが有効であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでにスマートスクール実証などから学校長には児童生徒一人一人の状況が把握できて担任のサポートが行える仕組みと、学校全体を見渡して学級崩壊に至る前に問題を見つける仕組み、さらには他校との比較が行えて自校の特徴が一目で分かる仕組みなど様々なデータ分析が行えることが求められていると感じてきました。これからの学校長にはデータ分析（当然サポート役は必要でしょうが）能力が求められると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実証ヒアリングなどから教職員には自分が受け持つ業務の状況や成果が見えることが求められると考えます。当然受け持ちの児童生徒の状況が見えることが重要ですが、さらには学校・学年の中で自分の受け持ちがどのような状態にあるのかを知らなければ評価はできません。教職員だからとアクセス権限を狭めるのではなく、学校全体の状況は見えるようにすべきだと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボード機能には、アクセスすれば毎回同様の集計データが現れる機能とそこから掘り下げていくことで、最終的には個々のデータにたどり着く機能とが必要だと思っています。単純に「見て終わり」とならないよう、分析に繋がる仕組みを作ってもらうことを事業者に求めます。
9	鶴田 浩一	<ul style="list-style-type: none"> 例1) 学校ダッシュボード【自治体内統一の学力テスト結果（全国学力・学習状況調査を含む）】+【クラウドツールの使用率】+【児童生徒の欠席率】+【不登校児童生徒数（推移を含む）】+【教員の年休取得率】等 学校間比較による素早く的確な学校支援 例2) 学校ダッシュボード【自治体内統一の学力テスト結果（全国学力・学習状況調査を含む）】×【児童生徒アンケート（全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査を含む）】or【学校長アンケート】or【クラウドツール稼働率】 クロス分析による学力向上の要因分析 	<ul style="list-style-type: none"> 例1) 学級ダッシュボード【同一学年の定期考査・単元テスト結果（推移を含む）】+【欠席数】+【問題行動報告数】【不登校児童生徒数】+【保健室利用状況】+【校内での児童生徒生活アンケート】 学級間比較による素早く的確な学級支援 例2) 担任ダッシュボード【担当児童生徒の教科等における学力調査の伸び】×【教職員の目標管理シート】 学習指導向上を目的とした指導 	<ul style="list-style-type: none"> 例1) 児童生徒ダッシュボード【市町統一の学力テスト結果（推移を含む）】or【校内の定期考査・単元テスト結果（推移を含む）】+【出欠席情報】+【保健室利用状況】+【校内での児童生徒生活アンケート】+【学習記録データ（作品等）】 児童生徒との個人面談、保護者面談等における客観的データを用いた説明 ※面談における教員の負担軽減に貢献 例2) 学級ダッシュボード【WEB-QU】×【出欠席情報】or【発言マップ（クラウドツールのコメント等を可視化）】 児童生徒（特に要支援群）の変化の兆候を素早く把握する 要支援群の児童生徒に対する支援を多面的に検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 例1) は拡散しているデータを集約して可視化するパターン・可能な限り今あるデータを活用する方が望ましいと考えます。その点では、悉皆かつ学校と紐づいている全国学力・学習状況調査及び児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査のデータの活用は有効ではないでしょうか。 例2) はデータを掛け合わせて新たな兆候等を可視化するパターン・例1) よりも目的志向性が高いと考えます。自治体に応じ必要なデータを新たに取得するケースも考えられます。 例1) ・例2) とともに、データの取得タイミング・時期が異なることには留意が必要と考えます。特に児童生徒アンケートなどは学期に1回程度のものであり、現在の児童生徒の状況をそのまま反映しているとは限らないため、あくまでも教職員の判断の材料とすることを理解した活用が必要だと思えます。

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
10	中村 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> 市の具体的な教育施策を講じるための根拠とする。(端末使用状況における運用支援、端末活用と学力との相関分析、個別デジタル教材の活用率と活用支援、個別デジタル教材の活用と定量評価における学力向上との相関分析、校長会研修における活用、積極的生徒指導、感染症対策における健康状況の把握、児童生徒の学習満足度、等) 	<ul style="list-style-type: none"> ※校長会企画会におけるヒアリングより 学校運営にかかる具体的方針を決定するための根拠(児童生徒の状況把握、定量評価で捉える学力の傾向、児童生徒の心理的状況把握から予防的生徒指導対策、各学級における学習者用端末の利用状況確認、児童生徒の学習満足度から見る教員の指導力への支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ※学校の教職員へのヒアリングより 生徒指導：気持ち等、学習状況：学習到達率 1日・1時間・月単位での睡眠時間の変動・動向など 保健関係書類のデータ管理 体調や参加の有無 ※つくば市はあまり、危険行為からの問題行動発見というよりは、学習状況把握、資質能力向上への意識が高い傾向があります。 	
11	福原 利信	<ul style="list-style-type: none"> GIGA端末の利用時間、利用状況 <ul style="list-style-type: none"> →整備の根拠となるが、逆に利用率が低くて整備が遅れることもある 生徒の進路状況(受験の可否状況) <ul style="list-style-type: none"> →各学校が共通のフォーマットで入力され分析できれば学校の進路実績が一覧で確認できる。(高等学校) 学校行事・授業の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> →教育委員会が学校にその日の予定を問い合わせずとも、学校の状況が分かれば訪問等の日程を調整しやすくなる。 個別の生徒情報 <ul style="list-style-type: none"> →長期欠席者等の調査を学校にかけることなく把握できる。自傷行為等で関係機関と連携を行い教育委員会に報告する案件は、こちらに入力して双方で共有する。 生徒へのアンケート <ul style="list-style-type: none"> →体罰アンケート、いじめアンケートなどを共有することで学校が取りまとめて報告をする必要がなくなる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> →教員毎、クラスごと、学年ごとなど色々な表示ができ、印刷して教員指導に役立てられるもの 保健室来室状況 <ul style="list-style-type: none"> →日付別だけでなく、生徒別に表示ができること。AIが判断して気にかける必要がある生徒を上位に表示したり、担任、学年に対してプッシュ通知する機能 欠席、遅刻、早退状況 <ul style="list-style-type: none"> →欠席が増えている生徒をAIが判断して気をつける必要がある生徒を上位に表示する。家庭への電話連絡が一定期間行われなかったなどの場合、校長にアラートが上がる仕組み。 授業欠時等を入力していない教員が一覧で分かる仕組み <ul style="list-style-type: none"> →わかるだけでなく、入力を促すメールが自動送信されるような仕組みもよい。年間で何回入力漏れがあったかを管理職は把握できる仕組み 教職員がどれだけ校務システムを利用しているかの利用時間と入力文字数などの活用状況 <ul style="list-style-type: none"> →使っていない教員、まとめて一週間分入力するなどの教員がなくなるよう、アラートが上がり注意を促す仕組み 部活動の休日の活動状況など <ul style="list-style-type: none"> →教員の特殊業務手当、出張のデータと連携してどの程度活動しているかが分かる仕組み 教職員の在校時間 <ul style="list-style-type: none"> →勤怠管理システムと連動して、教職員の在校時間が月ごと、個人ごとなどで視覚的に把握できるとともに、在校時間が増えている教員のアラートが上がり注意ができる仕組み 教員の仕事内容把握 <ul style="list-style-type: none"> →教員一人一人の授業時間、パソコンを操作している時間等がどれぐらいの割合になっているかを把握できる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 授業欠時数 <ul style="list-style-type: none"> →学期ごと、年間の欠時数を自動計算し、年間欠時数オーバーにならないよう自動的に警告する。【付加機能として担当教員が欠時数を入力していない場合もあり、もしもその間全部欠席だと超えてしまうなどのお知らせ機能があるとよい】 保健室との連携システム <ul style="list-style-type: none"> →保健室での相談や、怪我等の場合などそれぞれに対して養護教諭から対応を求められたことが確認できる仕組み。 基礎疾患などの情報 <ul style="list-style-type: none"> →アレルギーの生徒やエピペンの所持情報などが見られる仕組み。保健情報と紐づける。 成績に関する項目 <ul style="list-style-type: none"> →学校内のテストの成績だけでなく、模擬試験の結果なども自動的に連携し生徒の進路指導に役立てられる仕組み。 生徒の端末利用情報 <ul style="list-style-type: none"> →Webのアクセス、自宅での利用状況、WiFiへの接続状況などが分かることで不適切な利用を抑制できる。その代わりにフィルタリングをできるだけ外していく方向を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 入力忘れ警告の仕組み <ul style="list-style-type: none"> →出欠席の入力忘れを警告する仕組み。ログイン時だけでなく、個人のメールに一定期間入力がないと督促をする仕組み。 様々な処理を行う時に複数の教員で確認が行われる仕組み。

12	藤村 裕一 (1/2)	<p>・学校支援、教育政策の検討及び評価、議会対応に必要なデータに関する情報が、表示されてほしい。</p> <p>・学校支援モード、教育政策検討・評価モード、議会対応モードの切り替えができ、必要なデータが示されるとよい。</p> <p>【学校支援モード】※以下、いずれもリアルタイム情報と履歴情報を分析の上表示</p> <p>①MEXCBTや各種成績情報、学習理解度と学習満足度（前述の情報は、単なる学校平均を見るのではなく、一人一人の児童生徒の成績が伸びたかどうかを追跡する、変動に関する情報（イングランドのRaise Onlineが行っていたPAT(Pupil Achievement Tracker)）、学習eポータル・タブレット・電子黒板・インターネット・図書館・各種電子教材などの学校における利用状況（スタディログ）と、家庭における宿題・自主学習の状況、タブレット・インターネットの利用状況などのスタディログ</p> <p>②現在文部科学省の先端技術活用実証事業で開発中の「生体情報活用プラットフォーム」から得られる情報を活用した客観的な学習理解度・学習満足度の評価</p> <p>③学校ごとの児童生徒の心理状況（心の天気図の情報）や生活記録情報、Q-Uなどによる集団生活満足度など、健康・アレルギー情報・保健室利用状況などのライフログ</p> <p>④いじめ・不登校・問題事例などのリアルタイムと累積の認知件数と解決件数、状況報告</p> <p>⑤インフルエンザや新型コロナなど各種罹患に関するリアルタイム情報とAIによる拡大収束予測、新潟県上越市の事例のような地域マップへの現状表示と変動予測表示</p> <p>⑥児童生徒への手厚い支援を行うための就学援助情報・学齢簿情報・税務情報等による家庭環境に関する情報（※ガバメントクラウドの就学援助システム・学齢簿システム・税務システムの利用目的に「教育支援のための活用」を含めておくことが必須）と、それを基にした校区の特性に応じた分析を可能にするための地域特性情報（学力テストの平均点を単純比較するのではなく、イングランドのRaise OnlineにおけるCVA(Contextual Value Added)のような校区の保護者の経済状況・家庭状況などを配慮した比較と、同じような特性の学校のグッドプラクティス（アシストログ）の相互提供を支援するための機能 (次ページに続きあり)</p>	<p>①学年・学級を特定せずに（学級担任・教科担任が勤務評定に直結することを危惧して情報取得を拒絶することが想定されるため）、左記①で述べた各種スタディログ、特に学習理解度と学習満足度、実施授業時間数などを、学級・学年単位で分析・表示する機能（学級平均ではなく、二極分化がないかなどを分析できるように散布図を表示できるようにする）</p> <p>②現在文部科学省の先端技術活用実証事業で開発中の「生体情報活用プラットフォーム」から得られる情報を活用した客観的な学習理解度・学習満足度の評価</p> <p>③教育委員会用にあるCVA、PAT情報を表示し、地域特性が似ている学校のグッドプラクティス情報を表示する機能</p> <p>④学年・学級を特定せずに、学級・学年単位の集団生活満足度、出欠情報、心理情報など上記②のライフログを表示する機能</p> <p>⑤個人を特定して心理・健康状態の変動を見ていじめの早期発見・不登校の予兆発見予防などを支援する機能、閾値を超えた児童生徒を表示するアラート機能</p> <p>⑥児童生徒、教職員から緊急で直接助けを求める「校長先生助けてメール」の表示機能</p> <p>⑦保護者からの相談、要望を表示・分析する機能</p> <p>⑧文部科学省・都道府県教育委員会・市町村教育委員会からの連絡・通知情報を表示する機能</p> <p>⑨教職員の研修履歴等の表示機能</p>	<p>※学級全体の情報は、ヒストグラム・散布図等で。</p> <p>【日常活用モード】 個別の情報は折れ線グラフ・レーダーチャート・心の天気図等で</p> <p>①学級全体及び個別の成績の変化、各種教材等の利用状況の変化、学習理解度、学習満足度、進路希望情報、取得資格情報などのスタディログのPAT情報</p> <p>②現在文部科学省の先端技術活用実証事業で開発中の「生体情報活用プラットフォーム」から得られる情報を活用した児童生徒の「わくわく度」「集中度」の授業中のリアルタイム表示と、教師の教材提示・活動指示などの効果を、上記情報を対応させて個別の効果分析を行い、児童生徒のタイプ別、学習単元・学習場面別、生活指導場面別の教師への授業改善リコメンド情報を表示する機能（スタディログ・ライフログ・アシストログを活用分析してリコメンドを提示する「教員支援システム」の実装）</p> <p>③学級全体及び個別の出欠・遅刻早退情報、保健室利用記録、心理情報（心の天気図等）、集団生活満足度、アレルギー・健康情報（給食メニューとの関連でアラートも）、特別な配慮事項</p> <p>④保護者からの出欠・遅刻早退連絡情報</p> <p>⑤保護者から連絡のない欠席者・遅刻者アラート</p> <p>⑥担任以外の教職員からのプラス面の評価情報（児童生徒・保護者へのフィードバックも）、注意・指導状況報告</p> <p>⑦「友達にいいところ見つけ」情報の表示</p> <p>⑧「先生助けてメール」の職員室限定での表示機能（他の児童生徒が目にする事ができないように）</p> <p>⑨学校共通の児童生徒・保護者への周知・連絡・指導事項表示（電子回覧板）</p> <p>⑩保護者連絡・通知情報の既読・返信一覧（緊急連絡・安否確認システムを兼ねる）</p> <p>⑪保護者からの連絡・要望事項の一覧表示</p> <p>⑫児童生徒ボードもしくは学習eポータルへの担任・養護教諭・学校等からの連絡表示、宿題やおすすめの自主学習テーマなどの表示内容を入力する機能</p> <p>⑬委員会・クラブ・部活動等の情報、習い事情報（→学校集計・教育委員会集計へ） (次ページに続きあり)</p>	<p>①教育委員会ボード、校長ボード、一般教職員ボードを想定しているようですが、1人1台タブレットを有する児童生徒用ダッシュボードを介して、セルフデザイン型学習を支援することもできるのではないのでしょうか。</p> <p>②現在、年2、3回の学期末に通知表という形で少ない情報を提供していますが、保護者用ダッシュボードを2要素認証以上の本人認証・セキュリティ対策を講じた上で、スマートフォンやパソコン等で表示することを前提に、以下のことが実現できるのではないのでしょうか。また、1枚の紙でなく、保護者登録をした複数の大人が見ることができるようになることから、親が一人で教育を担っている状況から、複数の目で育てることへの転換も図られる可能性があると考えられます。</p> <p>1) 電子版学校便り・学年便り（週替わり通知表や月行事予定を含む）・保健便り・給食便りの配信</p> <p>2) 小テスト予告等や持ち物連絡など、学校・教職員から保護者への日々の連絡</p> <p>3) 世界初の「オンデマンド型マルチメディア通知表」の実現（学期末の通知表を待たずに、いつでも自分の子どもの成績や学習に関する所見等のスタディログを見られるようにする。また、現在の数行の文字情報による所見情報ではなく、日常のマルチメディア学習観察記録（演奏の録音、作品の写真、活動の様子の動画+教職員からのプラス面の評価情報）も加えることで、より保護者に部分の子どものがんばりやよいところ、さらなる向上目標を伝えることができるようにする。</p> <p>4) 欠席・遅刻・早退連絡の入力と、担任による既読確認機能</p> <p>5) 担任等への連絡・相談機能</p> <p>④児童生徒用ダッシュボードを、GIGAスクール端末（1人1台端末）の学習eポータルに校務支援システムと連携して表示できるようにすれば以下のことができるのではないのでしょうか。</p> <p>1) 自律型学習を支援するスタディログの表示</p> <p>2) 心の天気図等心理状況・状況等ライフログの入力</p> <p>3) 「友達にいいところ見つけ」の入力（相手と担任の画面に表示）</p> <p>4) 自尊感情を高める、担任とそれ以外のすべての教職員からのプラス面の評価情報の表示</p> <p>5) 担任、養護教諭、校長への「助けてメール」の送信（自宅からも） (次ページに続きあり)</p>
----	----------------	---	---	---	---

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
12	藤村 裕一 (2/2)	<p>【政策立案・評価モード】</p> <p>①上記①～⑤などの状況の他、学校基本調査情報、教職員基本情報、出退勤システム・校務支援システム等の利用状況から取得する勤務実態情報、教職員の勤務満足度・疲労度、教職員・保護者の政策提案・クレーム等の分析表示（必要なデータは日常入力し、調査をかける必要がないようにして入力側の負担軽減も図る）</p> <p>②特定施策の実施校の指標の事業前後比較、実施校と非実施校との比較表示</p> <p>③指標を定めての各学校単位・地域単位・地域特性別等での分析・表示機能</p> <p>【議会対応モード】</p> <p>①上述のデータを活用し、議会答弁に必要な情報を比較、時系列での変化、多変量解析、相関分析等をしてわかりやすく可視化する機能</p> <p>②答弁に必要な情報を即座に各学校等にWeb調査等を行って即日データ取得し、上記①の機能で答弁資料を作成する機能</p>		<p>⑭教職員自身の出退勤時間・勤務時間の履歴・年休取得状況・働き過ぎアラート・休憩リコメンド等</p> <p>⑮児童生徒の連絡先・保護者等の情報・家庭訪問用デジタルマップ（電子学級名簿）</p> <p>【個人面談モード】</p> <p>①個人面談用スタディログ・ライフログ表示機能（レーダーチャート等で可視化していること）</p> <p>②児童生徒・保護者からの要望の記録・共有機能</p>	<p>6) 自分の生活パターン見直しの参考とするためのタブレット・インターネット使用時間・内容表示</p> <p>7) 学校、担任等からの連絡表示</p> <p>8) 宿題情報、小テスト・単元テスト等の予告、持ち物連絡</p> <p>9) 学校からの連絡情報・注意情報、警察からの不審者情報等の表示</p> <p>⑤以上、各種ダッシュボードの可能性について触れましたが、次期校務支援システムの開発開始までに、どれを必須もしくは推奨機能とするかを検討する必要があると考えられます。</p>
13	水谷 年孝	<p>・右記②に記載したような各校のデータの状況や保護者からの学校評価アンケートの結果から、各校の状況を把握し、必要な支援を早期にしていけることができると思います。</p>	<p>・右記③に記載したデータを学級別や学年別に再集計をして、各学級や各学年の全体的な状況・傾向を把握し、早期に適切な対応を進めることができると思います。</p>	<p>・保健室の利用状況、欠席・遅刻・早退の状況、各授業の振り返りの文字数の変化、プラス表現ワード数とマイナス表現ワード数の変化、Chatの記述、検索キーワードの変化、Webアクセスログ、クラスルームでの各レポート等の提出状況、試験（単元テストを含む）の状況、AIドリルの活用ログ、心の天気、QU、生活記録のワード分析などを組み合わせることで、児童生徒の心理状況の変化を早期にとらえることにより、不登校や問題行動が深刻な状況になる前に、関係諸機関と連携をして支援することができると考える。もちろん、学級別のデータ集計により、学級の状況把握にも活用できると思います。</p> <p>・授業の振り返りやレポート等の文字数やワード分析から、学習状況を把握し、個別の支援につなげることができると思います。</p>	<p>・前回の会議でも発言をしましたが、このようなデータを有効活用するために、そのデータの扱いについて、個人情報保護の観点からガイドラインをきちんと定めて、保護者等の理解を得ていくことが必要だと思います。</p> <p>・なお、このようなデータ分析ができる教員や職員は、現状では、ほぼいません。人材育成・配置と管理職のリスクリングが必要だと思います。</p>
14	山口 伸一郎	<p>・児童生徒の障害種（自閉症、ダウン症、等）、障害の程度（障害者手帳の等級、等）、進路希望（福祉的就労、企業就労、等）、居住市町村、スクールバス利用の有無、が全県的に把握できると、その都度、各校へ調査を行わなくて済む。教育委員会、学校双方の負担減になる。</p> <p>・各校教職員のうち、病気休暇者数、産休・育休者数、今後の産休・育休見込み者数、等が全県的にリアルタイムで把握できると、代替者の調整等がより適切にできる。</p>	<p>・左記①の内容に加え、個々の児童生徒の服薬の有無、服薬している場合の薬名や服薬方法（朝・夜の2回、等）、食物アレルギーの有無、食物アレルギーの内容、主治医（医療機関名）、利用しているスクールバスの便名（「大宮便」「浦和便」等）、利用している放課後デイサービス事業所名と連絡先、等が適時的に確認できるとよい。</p>	<p>・左記②の内容に加え、個々の児童生徒がこれまで活用してきた教材・教具、学習課題、効果的な指導法、等の情報が適時的に確認できるとよい。</p>	<p>・特別支援学校の視点で回答</p>

番号	委員氏名 (敬称略)	①教育委員会として活用を想定した場合のご意見	②学校長として活用を想定した場合のご意見	③教職員として活用を想定した場合のご意見	④その他
15	梅屋 真一郎				<ul style="list-style-type: none"> 非教育分野のものとしては、教育現場以外の視点からの仕組みの可否（例えば、保護者、保護者や本人から参照権限を委譲された塾など）も議論に入れてはどうか
16	佐藤 昌宏	<ul style="list-style-type: none"> 現状、教育委員会や自治体として、各学校の運営が適正にされているか、は何をもって判断されているか？もし、それが自治体、教育委員会毎に異なるのであれば、全自治体にヒアリングすべき。そのパラメータをダッシュボード化するべき。また、全国や世界（先進国）との参考比較も可能になるため、各学校管理指導に有効と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状、学校長として、学内の運営が適正にされているか、は何をもって判断されているか？もし、それが学校、校長毎に異なるのであれば、全学校、校長にヒアリングすべき。そのパラメータをダッシュボード化するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状、教職員として、教室運営や生徒指導が適正にされているか、は何をもって判断されているか？ここは非常に多岐に渡ると想定されるが、大きく分けて、教職員の校務と学習指導（授業やその他指導）に分けて考えると、校務に関しては、左記①②からの流れに沿ったデータ取得をすべき。問題は、児童生徒への学習者指導のデータ化である。なぜなら、児童生徒のデータ取得の方法が議論されていないから。校務からの議論だとそうなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回、校務専門家会議からの流れによるアンケートと理解しているが、教職員業務の中に児童生徒への学習指導が入ることが必須になることから、児童生徒への学習者指導データ取得の議論は避けられないと考える（学習者の変容）。今回のアンケートにも、学習者として活用を想定した場合が入っていない。 ダッシュボードの最大の価値は、データを活用して、強力なインサイトを導き出して効果を生み出し、少ないリソースで最大の成果をだすことであり、組織のインサイトに学習者のインサイトが多分に含まれる教育においては、学習者のインサイトを導き出し、自立的に主体的・対話的で深い学びを体現できる学習者を育成することがデータ利活用の目的ではないか。学習者の変容を含めた分析ならば、データ活用の目的を教育委員会→学習者の流れではなく、学習者→教育委員会への流れで議論すべきと考える。
17	戸ヶ崎 勤	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導関連データ（暴力行為、不登校、いじめ、長期欠席、教育相談等）の件数、学習指導関連データ（学力調査結果、ICT活用状況等の客観データに加えて、学習状況調査結果や子供目線の授業アンケートといった主観データも含む）や学校生活関連データ（教師、友人、家庭の関係性や学級での心理的安全性、非認知能力等）の集計結果（平均値だけでなく分散等、集団の状況を把握できる記述統計データ）が学校ごと、学級ごとに一覧で確認できるとよい。 また、地域や家庭からの学校の信頼度若しくは理解度（現在形骸化している学校評価アンケートではなく、今後の研究が必要だが、学校経営に関して対外的にどう評価されるかといった客観的な指標）、そして学校教職員の満足度や働き方の実態が可視化されるような教職員関連の客観主観双方のデータは学校ごとに確認できるとよい。学校としての課題がどこにあるか、うまくいっている点はどこかを客観的に分析し学校へフィードバックするとともに、学校へのサポートについてその要不要や強度を検討する材料になる。また、俯瞰的にデータを分析することができる立場として、うまくいっている取組の政策波及につなげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と同じ項目に加えて、出欠席状況や成績や保健関係のデータといった校務データが、自校のデータと学級ごとのデータについて閲覧できるようになっていれば、学校経営の状況確認や判断に利用することができる。また、学級経営がうまくいっているがどうかも随時確認できるようにすることで、校内の体制を含めた教職員へのサポートの検討材料にすることができる。教育委員会の立場との違いで異なってくるのは、特に生徒指導関連のデータについて件数だけではなく、案件の中身も簡易に確認できる仕組みになっていることが必要な点である。学校管理職のデータリテラシーには個人差が大きいと思われるため、データ利活用の初期には、その差を補完する仕組みがあると、活用の度合いに差が生まれにくいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> データ項目ごとに、担当の分掌や学年、学級ごとに権限を検討する必要はあるが、学校教職員に関連するデータ以外は、学校長と同様のデータ項目の確認ができるとよい。学校長との立場の違いとして、より児童生徒個々の情報の詳細を簡易に確認できることが求められる。また、定量的なデータも重要ではあるが、日々の所見や児童生徒の生活上、学習上の特性などの定性的なデータを蓄積していく仕組みと、児童生徒ごとにその情報を簡易に確認できる仕組みがあるとよい。過去の生徒指導上の記録や、個人の特性が蓄積されていき校内で共有が図られることで、組織的かつ適切な対応が継続的に行うことができる。 教職員にとっての教育データ利活用は、「教師による子供の見取り」という主観的な定性データをいかにアウフヘーベンによって組織としての共通認識という客観的な定性データにしていくか、という点が重要になってくる。ケース会議がわかりやすい例かもしれないが、定性的なデータは教師一人が抱えておくものではなく、複数の目線で議論を交わすことで教育上の価値が高まっていくはずで、教師の専門性はこういったところで発揮すべきと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 上述のすべての立場で言えることであるが、市や県や国の調査の一環で取得することデータ項目もあることから、それらの項目はダッシュボード機能のあるシステムへの一元的な入力により調査も完結するように設計すべきである。業務負担の軽減はもちろんのこと、各種調査が自分たちの活動にも生かせるデータになるという実感を伴うことで、調査等のデータ取得や、それらのデータ利活用に関して前向きになれると思われる。